

念ずれば花開く

茨城県

日立ジュニア剣道クラブ

中学2年 大泉彩葉

「彩葉、ありがとう！」

先輩達が私に抱きついて喜んだ瞬間、それは初心者軍団が変貌を遂げた時でした。

私が入学した時、女子剣道部員は、私を含めて先輩四人の計五人しかいませんでした。先輩方は中学校から始めた初心者です。初心者とはいえ、先輩方の取り組む様子にショックを隠し切れませんでした。まず、剣道を行う上で当たり前である「気合い」という発声を、恥ずかしいを理由に全く出さないのです。これには正直参りました。恥ずかしいと感じる観点のズレは、私にとってはしょうもなくくだらない事であり、先輩たちは剣道において何がダサいのか分かっていないのです。愚痴を吐き出せば限りがありますが、先輩方の姿に絶望を抱きました。返事すらできない先輩達、これでは勝負にならないチームだということを悟る私。当然ながら、地区大会を突破できないチームだと言うことは言うまでもありません。

学校での勝負を諦めていた私に、剣道三段の母から希望をもたらす言葉をかけられました。「女子団体戦を組む上で、五人揃っていることは強みだよ。諦めるのは早いね。彩葉が中学校で勝負したいならば、先輩方を良い意味で道場に入れて巻きこんでいこう」。そうかも知れないけれど、先輩達はやってくれるだろうか。とりあえず一人、また一人と道場に誘うと、先輩方全員が道場に入団してくれました。

ここからは、道場と部活の両立。私にとっては当たり前の日常でしたが、先輩達はガラリと様変わりした日々となりました。中学校、道場において、たくさんの練習試合を組んでいただき、試合への意識を高めていきました。

目標の確認をした日。先輩たちの口から出た言葉は「関東大会に出てみたい」。私は耳を疑いました。意識レベルの低かった先輩達から信じられない目標を聞いてしまい、驚きと嬉しさが入り乱れ私の感情は大変なことになってしまいました。「先輩！私も団体で関東大会に出たいです」。皆が同じ目標を掲げ、心を一つにした瞬間でした。

先輩たちの頑張りは加速していきました。後輩の私にも「稽古、お願いします」。小学生にも「お願いします」。その姿に触発されて私も負けまいと稽古に取り組みました。

私達は、地区大会すら勝ち上がれない弱小チーム。そこから、のし上がりました。先生が教えて下さった事。「個人で戦うのではなくチームで戦う事。チーム力で見せつけていく事が、このチームの魅力であり、勝利の法則」である事。その教え通り、県大会では、たとえ先鋒から大将まで全員が引き分けになったとしても、これがチームを信じた結果である。代表戦になり相手が格上の選手であっても、繋いだ試合こそが私たちの勝利の法則。

チームで戦っていることを感じながらの代表戦では、私は無双モードに突入です。代表戦は、20分を超える試合となりましたが、集中力を切らさず、チャンスが来るまで耐え抜きました。勝負あり。その後も快進撃を続けた私達は、県大会第三位という成績を納めることが出来ました。駒王中学校として初の関東大会出場の切符を手にしりましたが、驚く事は日立市内女子剣道部として関東大会出場は四十六年ぶりであるということです。これは、初心者チームが起こした奇跡であり、嘘のような本当の話です。

こうして、皆の目標が一つになった時からやる事は決まりました。短期間でも、やる事を絞り取り組めば、技術的成長も、精神的な成長も期待できるのです。出来ないと諦めるのではなく、無理だと投げるのではなく、まずは念ずる事が大切です。目標が一つになった時「念ずれば花開く」。私達の出来る事が、ひとつ、またひとつと花開いていきました。何事も祈るように一生懸命努力をすれば、自ずと道は開けます。夢や目標が叶います。私はこの経験と皆の努力を忘れません。